12：50
〜
14：10

トークショー＆NPO法人Fine　名誉会員証の贈呈式

ホール

ジャガー横田さん×木下博勝さんご夫妻トークショー

Fine名誉会員証の贈呈式

質問タイムもあります!

ご夫婦で乗り越えた不妊治療の日々。さまざまな場でその体験を語り、
「もっと不妊への理解を！」と発言を続けるジャガーさん・木下さんご夫妻。
その姿、その言葉は、私たち当事者にとって、とても大きなエールです。
今日はどんなトークが繰り広げられるでしょう？　お楽しみに！

おふたりの歩み

ジャガー横田さんのリングドクターとして試合会場で出会い、2回目に会ったときに木下さんがプロポーズ。1年半後の2004年7月に結婚。中卒のプロレスラーと、7歳年下の大学院卒エリート医師のカップルはマスコミでも話題に。1年過ぎても妊娠の兆候がないため産婦人科を受診、ジャガーさんの子宮筋腫が判明。妊娠をめざして子宮筋腫摘出手術を受けた後、体外受精にチャレンジするも着床にいたらず。翌月、思いがけず自然妊娠。06年11月、ハワイの病院で長男・大維志（たいし）くんを出産。ジャガーさん44歳での妊娠、45歳での出産。おふたりの出会いから不妊治療、出産までの日々はジャガーさんの著書『ジャガー流！ 人生逆転』（主婦の友社）に詳しい。

ジャガー横田 さん

1961年東京生まれ。1977年中学を卒業後、全日本女子にプロレス入り、同年デビュー。WWWA世界王座など、多数のタイトルを獲得。2度の現役引退から復活。生涯現役プロレスラーを誓い、戦いを続ける。

message

当初、子どもというのは結婚したら簡単にできるものと思っていました。しかし結婚してから1年半が経ってもなかなか恵まれず、検査をしたところ、子宮に10cmの筋腫が見つかりました。しかも、このままでは妊娠の確率は0％だったので、私は迷うことなく手術をすることにしました。

手術は無事に終わったものの、それでも年齢から自然妊娠をする確率は3％と言われました。そこで不妊治療を勧められ、なかでも一番確率の高い体外受精にチャレンジしたのです。

治療の経過は順調だったにも関わらず、結局うまくいきませんでした。主人に申し訳ない気持ちでいっぱいで、この時ばかりは自分の年齢や体を責めました。しかし、そんな時でも顔色ひとつ変えず主人は私を支えてくれました。

「あなたが悪いわけではない。これは二人の問題だから一緒に頑張っていこう」

主人のこの言葉に救われ、たとえ妊娠の確率が3％でも、「0％ではないのだから、可能性がある限り、前向きに主人と二人三脚で頑張っていこう」と決意したのです。その結果、44歳で奇跡的に自然妊娠という形で大維志を授かることができました。

不妊を経験して今、私が思うことは、「可能性がある限り、自分を信じ、諦めないでチャレンジする」ことだと思います。

不妊は女性だけの問題ではありません。当事者が受けているプレッシャーや精神的苦痛は大変つらいものです。そのことを旦那さんや家族の方たちが十分に理解をし、少しでも気持ちを楽にさせてあげられるようしっかり支えてください。

message

不妊治療を受けている方から時々、「出口の見えないトンネルに入っている」という言葉を聞きます。2006年1月までは、恥ずかしながらこの意味がよく理解できませんでした。

不妊治療には3つの苦難があると分かったのも同時期でした。医学部生の時に教科書で勉強した、不妊治療の知識では到底理解に及ばないものでした。

1つ目の苦難は精神的苦難です。親族や周囲から、子どもに関してあれこれ言われるだけで女性はストレスに感じることが非常に多いのです。最低限、夫は理解してフォローし、周囲にも気を使ってもらわなければ、うまくいくものもいかないのだと実感しています。

2つ目の苦難は、肉体的苦難です。体外受精時には定時の筋肉皮下注射をはじめ、頻回の通院や採卵等、女性だけが経験する苦難です。代わってあげたいと、僕も妻の治療中には思いました。やはり、夫の理解協力が必要です。

3つ目は経済的苦難です。不妊治療（体外受精）は保険適応外で治療費は高価です。その治療は1回につき、40万から60万円くらいかかります。政府の理解の下に保険適応になれば、あとどれくらいの方が不妊治療を受けられるでしょうか。また、経済的な理由で断念しなければならない方が続けられるでしょうか？

僕はライフワークとして、この問題に今後も取り組んでいきますので、皆さんも「明けない夜はない」と思って治療を頑張っていただきたいです。

木下博勝 さん

1968年北海道生まれ。医学博士。東京大学大学院博士課程修了、大学付属病院・癌研究所などを経て、所沢胃腸病院の副医院長。本業の傍ら、テレビ等に出演中。

ゲスト

和田千春 さん『赤ちゃんが欲しい』編集部（主婦の友社）

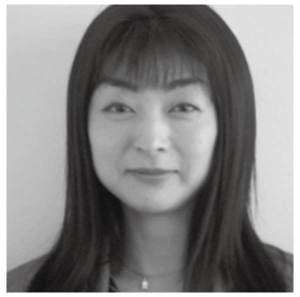
主婦の友社『赤ちゃんが欲しい』チーフエディター。妊娠出産誌の編集者だった16年前、自身の反復流産体験をきっかけに「赤ちゃんが欲しい人向けの情報をもっと！」と提案。季刊のムックである本誌と、読者組織「赤☆（あかほし）くらぶ」の立ち上げ＆運営に携わってきた。自称「赤☆（あかほし）のハハ」。

『赤ちゃんが欲しい』は、皆さんの「通過点」としてお役に立ちたい情報誌です。わかりやすい医学情報・生活情報と、読者のホンネ満載で、これからも夢に向かってアプローチする皆さんにエールを送り続けます。

message

司会

松本亜樹子 NPO法人Fine理事長



時代の移り変わりにかかわらず、いつまでたっても不妊当事者の悩みは深く不変、そして万国共通で「"自分はひとりぼっちだ"と思っている」。この現状を打破したいと願って、今回「Fine祭り2008」を企画しました。めちゃくちゃ元気になれるような、明るくなれるようなことができないかな、と。そのとき、ゲストを呼んでトークショーをするなら、「ジャガー横田さん&木下博勝さんご夫妻しかいない!」と思いました。面識もコネもなく、出演依頼のお電話をした時には、心臓が飛び出そうなぐらい緊張しました。その甲斐あって、今日を迎えることができて感無量です。ご夫妻のパワーとオーラで、来場のみなさんの笑顔と元気がアップすることを願っています!

message